

飯田短期大学・仁愛女子短期大学

相互評価報告書

(一部抜粋・本学の評価のみ記載)

令和8年3月

飯田短期大学・仁愛女子短期大学

目次

1. あいさつ
2. 実施日程と概要
3. 学長講評
4. 相互評価会議での各質問事項でのやりとりの概要
5. 編集後記

1. 挨拶 (学長)

飯田短期大学 学長 武分 祥子

あいさつ

仁愛女子短期大学様とは、平成 22 年に「相互評価に関する協定書」を結ばせていただいてから、今回で 4 回目の相互評価の実施となります。7 年前の 3 回目の相互評価では、看護学科長として福井にある貴校に行かせていただき、こちら飯田の地でも皆様をお迎えしたことを覚えております。その折とは相互評価のメンバーや役割も変化しましたが、お世話になり面識のある方々と再び協議できることに心強く感じております。

この相互評価を通じて、仁愛女子短期大学様には長年、さまざまな側面より学ばせていただいております。そのお陰で本学の体制も整備されてきており今日に至っております。前回と一番大きく異なる点としては、本学が令和 5 年に男性も入学して共学となったことではありますが、開学時より建学の精神「うつしく生きる」を根本とした人間（ひと）を大切にする教育は大切に貫いております。

現在、大学教育は新たな運営のあり方を社会に求められ、その中でも短期大学はとくに大きな変革期を迎えています。今回の相互評価では、改めて互いの教育研究の普遍性や価値を確認し、両短期大学が今後に向かうための示唆が得られればと思っております。短期大学は今日、入学者確保の面で一層厳しさを増していますが、地域にとって不可欠な短期大学であるという両短期大学の強みもこの機会に再確認し報告書とできれば幸いです。

2. 実施日程と概要

第2回相互評価会議（受審校：飯田短期大学）

日時：令和7年9月9日（火）13：00～16：00

場所：オンライン開催（Zoom）

次第：13:00 【評価】

1. 開会 飯田短期大学 ALO 三浦 弥生
2. 学長あいさつ 飯田短期大学 学長 武分 祥子
仁愛女子短期大学 学長 禿 正宣
3. 評価・質疑応答 ※事前確認・質問票の順（一質問3～5分程度）

14:15 【休憩】

14:30 【総評】

4. 総評 仁愛女子短期大学 学長 禿 正宣
5. 御礼 飯田短期大学 学長 武分 祥子

15:00 【閉会】



仁愛女子短期大学 出席者名簿（敬称略）

	役 職	氏 名
1	学長	禿 正宣
2	副学長・幼児教育学科長	石川 昭義
3	生活科学学科長	田中 洋一
4	総合学務センター長	大西 新吾
5	情報資源センター長・附属図書館長	島田 貢明
6	情報メディア教育支援室長	辻岡 和孝
7	研究活動委員長	木下 由香
8	点検評価推進室長（ALO）	中尾 繁史
9	事務長	熊木 雅代
10	事務局次長	福岡 昭雄

飯田短期大学 出席者名簿

	役 職	氏 名
1	学長	武分 祥子
2	事務局長・個人情報保護委員長	矢澤 庸徳
3	法人本部長・IR室・衛生委員長	木下 幸彦
4	地域連携センター長・生活科学学科長・研究倫理委員長	友竹 浩之
5	健康センター長	澤田 有香
6	学務部長（兼教務課長）	稲吉 政岳
7	管理部長（兼財務・庶務課長）	山口 正之
8	FD委員長・教務委員長・生活科学専攻主任	奥井 現理
9	SD委員長・健康センター主任	竹村 香
10	学生課長	渡邊 千春
11	幼児教育学科長	青木 千恵美
12	看護学科長	鈴木 真由美
13	幼児教育学科主任・研究倫理審査委員長	菱田 博之
14	介護福祉専攻主任・図書館長	太和田 雅美
15	食物栄養専攻主任	新海 シズ
16	看護学科主任・学生募集委員長	矢澤 玲子
17	基礎教養主任	田中 洋江
18	図書・学術委員長	高木 一代
19	全学集会プロジェクト	坂上 ちおり
20	自己点検評価委員会事務局・広報課長	吉澤 智子
21	自己点検評価委員会事務局（記録）	湯澤 萌捺美
22	自己点検評価委員会事務局（記録）	塚田 和也
23	自己点検評価委員会事務局（ALO）・学生委員長	神澤 絢子
24	自己点検評価委員長（ALO）・副学長	三浦 弥生

3. 講評

仁愛女子短期大学学長

本日は本学からの質問に対し、回答いただきありがとうございました。

先週は武分学長から、個別に非常に丁寧な評価を含めたご高評をいただいたが、学科・分野も異なることもあり、十分な集約ができていないため、点検報告書を再読し、本日の質疑でいただいた回答を述べさせていただくレベルとさせていただき、改めて正式な評価案をまとめさせていただくことでご容赦いただきたい。

●基準Ⅰ 建学の精神に関する事項について

貴学の建学の精神については、これまでも説明を受けてきたところであるが、「うつくしく生きる」という句に集約された理念・目標が一貫して維持されていることが確認できた。宗教行事および全学集会が継続的に実施され、それらが教育目的・教育目標、さらには学修成果や学科・専攻レベルへと適切に展開されており、点検および見直しも適正に行われていると認められる。

地域社会との連携においては、飯田市をはじめとする複数の近隣自治体に加え、各種団体や四年制大学との連携が構築されており、授業展開や地域産業との産学連携活動も活発に行われている。これらの取組を通じ、地域の中核的存在として活動していることが確認できた。

また、公開講座が数多く実施されている点については、各種業務が増加する中であっても教職員の尽力により継続されており、その姿勢には高い評価を与えたい。

学生のボランティア活動に対する単位認定の在り方については、貴学のみならず多くの短期大学が共通して抱える課題であると認識した。

●基準Ⅱ 教育課程と学生支援に関する事項について

各学科・専攻の教育課程は、資格取得を目的とする課程が多く、一定程度構成が定められている中で、それぞれの分野特性に即して適切に編成されていると評価できる。

基準Ⅱにおいて中心となる学修成果の獲得状況については、GPA 分析や各種統計データによる検証に加え、学科・専攻ごとにルーブリックを構築し、さらに学生の自己評価へとつなげている点について、非常に丁寧な説明がなされ、現状への理解が深まった。

また、長期履修制度については、本学においても検討課題として挙がることがあるが、現時点では制度導入に至っていないことから、貴学の取組は今後の参考としたい。

●基準Ⅲ 教育資源について

人的資源については、教員配置、事務組織、FD・SD 体制を含め、教職協働の体制が確立され、適切に定められた上で運営されていると評価できる。

物的資源についても、概ね良好に整備されているが、一部バリアフリーに関する課題が残されているとの説明があった。完全な整備が困難な分野ではあるものの、引き続き改善に向けた取組が望まれる。また、貴学は共学化に踏み切られており、これに伴う施設・設備面での対応については、本学としても高い関心を有していることから、今後機会があればご教示いただきたい。

●総括

全体を通じて、追加質問も含め丁寧な回答がなされ、各基準に関する状況について、報告および質疑応答を通して十分に認識することができた。

特に、前回の認証評価以降、各基準に基づく多くの改善計画・行動計画を策定し、それらの実施に向

けて継続的に努力されている点は高く評価でき、その姿勢に敬意を表したい。

今後、本日の質疑を踏まえ、各基準に関する評価案を取りまとめ、後日、改めて相互評価案として提出する予定である。また、先週実施された本学に対する評価についても、引き続きお願いしたい。

次回の認証評価に向けた準備を早急に進める必要があるが、相互評価の対象外とされた財務やガバナンス等の分野については、今後さらに厳しい状況が想定される。そのような中であって、本相互評価を通じ、教育課程や学修成果といった、いわゆる教育の質保証に関する点を点検できたことには大きな意義があったと考える。

短期大学を取り巻く環境は、入学者確保の面で一層厳しさを増しているが、互いに地域にとって不可欠な短期大学であるという共通認識のもと、今後も努力を重ねていきたい。

4. 相互評価会議での各質問事項でのやりとりの概要

基準			
I 建学の精神と教育の効果			
テーマ	A	区分	基準 I-A-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
1	<p>基礎資料(1) 学校法人の沿革の記載で、平成 29 年 4 月に開設された「介護福祉士実務者学校」というのは、どのような目的、位置づけの機関なのでしょうか。</p>	<p>介護福祉士実務者学校は、本学学生の介護資格取得のためだけではなく、地域の介護者育成に貢献することも目的として開校しました。本学は以前から介護職員初任者研修や介護技術講習会を実施し、学生はじめ地域の介護者養成にも尽力してきましたが、制度の変更等に併いそれらを廃止しており、それに代わる新たな資格取得の学びの機会として開設したという経緯があります。</p> <p>この学校は、本学とは別の学校であるという位置づけです。そのため、当該校では介護福祉士実務者資格が取得できるカリキュラムを開講していますが、学生が受講しても卒業単位にはならず、受講料も別途必要になります。但し、本学の基礎教養科目「介護福祉の基本」を受講すると、当該校の授業の課題が理解しやすくなるなど、介護に興味を持った学生の学習を支援しています。</p>	<p>●追加質問【禿 学長】 集中講座のようなものなのか、あるいは学校教育法上の学校として各種学校のようなものなのか、「学校」という名前が付いているがどういう位置づけなのかをお伺いしたい。私どもの設備や施設にはかなり余剰が出てきているため、今後学校法人として展開できるよう何か参考にさせていただけることがあるかなという観点でお伺いした。</p> <p>●回答【太和田 介護福祉専攻主任】 介護福祉士実務者学校として関東厚生局に申請し、認められた学校。この学校は通信課題で受講生が各自持っている基礎科目によって受講時間が変わる。無資格の方は 19 科目程度提出してもらい、夏休みのスクーリングと合わせて資格取得となる。</p> <p>●質問(新規)【禿 学長】 基準 I-A の特記事項の中で、全学集会は学科・専攻が主体と記載されているが、全学的行事の企画実施にあたり調整を行う全学的な組織というのはどのようになっているか。</p> <p>●回答【坂上 全学集会プロジェクト長】 全学集会ではプロジェクトのメンバーが学生に司会の指導等の朝練習をして、宗教的な行事を月に 1、2 回ほど行っている。全学集会プロジェクトは職員から 2 名、教員から 7、8 名選出されている。</p>
2	<p>基礎資料(4)「わいわいひろば」の詳細について、ホームページで確認できませんでした。学校側の受け入れ態勢について、具体的に教えてください。</p>	<p>受け入れ体制については、以下のとおりです。 <開館日> 月曜日から金曜日(月 1 回休日開館あり) 但し、国民の祝日、年末年始、学校の行事等により休館となることがあります。 <利用時間> 9:30~14:30 <利用料金> 無料(但し材料費等をご負担いただく場合があります。) ホームページは以下のアドレスで確認をお願いします。 *資料表示 ・わいわいひろば HP ・活動内容</p>	<p>●追加説明(友竹 地域連携センター長) 「わいわいひろば」は未就園児が対象、預かり保育は実施していないため親子で利用していただく。飯田市の中でも広い施設のため、非常に多くの方に利用していただいている。実績は「R6 地域子育て支援拠点事業実施報告書」を参照。子育てに関する相談窓口もあり保育士たちが相談にのっている。補助金の対象のため、それも含めて積極的に活動を行っている。運営の部分だが、飯田市から地域子育て支援拠点事業という補助金をいただいて、常勤 1 名・非常勤 6 名の保育士で運営している。基本的には平日開館だが、今年度に関しては講演会を伴うという条件で土日開館も行っている。イベントの募集に関しては LINE を使っており、LINE を登録した方にイベントをお知らせしている。</p>

		<p>・ R6 地域子育て支援拠点事業実施報告書</p>	<p>●追加質問【中尾 点検評価推進室長 (ALO)】 先ほど拝見した写真の中に、学生が写っているが。</p> <p>●回答【友竹 地域連携センター長】 学生が授業、またはボランティアでわいわいひろばに入って活動している。学生以外にも中学生や高校生のボランティアさん等、多くの方に来ていただいている。</p> <p>●追加質問【中尾 点検評価推進室長 (ALO)】 授業の中でとのことだが、複数の科目の中での学生の体験活動という形なのか、単独の科目なのか等、もし可能であれば教えていただきたい。</p> <p>●回答【青木 幼児教育学科長】 学生は1年次、人間関係の領域の「人との関わり」という科目の中で入っていた。2年次は他の科目で実際に子どもたちと関わる時間を持つことができるようなカリキュラムを組んでいる。また他にも、わいわいひろばで行われる夏のお祭りのブースを学生が企画したり、乳幼児向けの持ち帰りのおもちゃなどを作ったりすることを授業の中で行っている。</p>
テーマ	B	区分	基準 I-B-3
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
3	<p>「卒業認定・学位授与の方針(DP)は、学習成果に対応していることを確認し、」(p.20)とありますが、どのように確認をされておられるのか、DPと学習成果との関係付けと併せてご教示ください。</p>	<p>各学科・専攻のDPと学習成果については、各学科・専攻会において毎年確認しています。また、令和7年度には教務委員会において、全学および全学科・専攻で対応しているか確認をする予定となっています。また、DPをめざす姿とすれば、学習成果は学生が身につけている具体的な成果物として関係付けており、文言も「(学生が)～身につけている」と全学で統一した表現を用いています。</p>	<p>●追加説明【奥井 教務委員長】 令和6年度に教育目的・目標と3つのポリシーを全て改定し、現在学習成果と少しズレが生じている状態だが、今年度で全て新しいものに揃えたいと思っている。この関係付けというのは学習成果が達成されればDPが達成されるというような、一般的な考え方でやっている。</p> <p>●追加質問【石川 副学長・幼児教育学科長】 DPと学習成果は一心同体なのかということをお伺いしたかった。例えば幼児教育学科を例にすると、3つのディプロマポリシーと7つの学習成果が示されているが、7つの学習成果の獲得をもって3つのDPが自然と満たされると解釈してよいか。何かの理由で一つのDPだけが満たされないということが起こり得るのかどうかということをお伺いさせていただいたかった。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長】 私の考えとしては、一心同体と考えている。学習成果を全て達成できればDPが達成されているはずだという、メカニカルというか機械的な感じで上手く作ろうと思っている。私の目から見て少し欲張っ</p>

			ているという学習成果も散見されるため、そこは本年度調整したいと思っている。
テーマ	C	区分	基準 I-C-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
4	<p>公開講座の開講数が 47 講座とあり、専任教員の数よりも多くの講座が開講されているが、企画の学内募集方法や集客のための告知方法、講座当日の実施運営体制などについてご教示ください。</p>	<p>公開講座の募集については、学内すべての教職員に、前期・後期が始まる前に専用の申込フォームを送信しています。その他、個別に声かけをしています。</p> <p>集客のための告知は、公民館等にパンフレットを置いてもらったり、個別に発送したりしています。また、講座ごとに個別チラシを作成し 関係するところへ配付しています。当日の運営は、地域連携センターの職員が準備・受付・片付けの対応をしています。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 前期公開講座 ・R6 後期公開講座 ・R6 地域連携センター議場(公開講座) 	<p>●追加説明【友竹 地域連携センター長】 開講数を 47 にしてあるのは、改革総合支援事業の補助金の関係で 40 以上というノルマがあり、実際には開催人数が集まらなくて開催されないというのもあるため、それ以上という形でいくつも準備している。先生方には 40 以上をノルマにお願いしている。</p> <p>募集については、先ほどのわいわいひろばは若いお母さんたちに向けて LINE を使っているが、これに関しては、公民館にパンフレットを置いたり学校のホームページを見ていただいたり、これまで出ていただいた方に郵送でお送りするような形で、少し昔ながらの方法で募集をしている。はがき、メール、FAX など電話以外ならどんな形でも受け付けている。講座については、前期 20 後期 20 用意している。学内の教員以外の先生にもお願いして講座を開催している。</p> <p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 この 47 講座の数はすごく多いと思い、教員数からして今お伝えいただいたように、ある程度のノルマというか、最低一つは各教員が引き受けてほしいというような案内をしているのかどうか、教員がそれに従うようなルールができていいのかどうかを知りたくて質問した。</p> <p>●回答【友竹 地域連携センター長】 ルールはないが、出せる人はとにかく出してくださいと、こちらからお願いするケースもある。この講座は人気があるからぜひお願いしますという形で、多く引き受けてもらう教員もいる。</p>
5	<p>出前授業 52 件と件数が多いが、どのように告知をしているか。出前授業の告知方法と、学内の実施運営体制についてご教示ください。</p>	<p>出前講座の告知は、公開講座と同じようにパンフレットを、公民館・小中学校へ送っています。また、前年度出前講座を利用した学校からは、次の年も同じように声がかかることが多くあります。学校保健委員会での利用も多くあります。</p> <p>運営については、地域連携センターが窓口となり、教員との日程調整をします。日時決定後は、教員と先方でのやり取りになります。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 出前表紙 ・R6 出前中面 ・R6 地域連携センター事業(出前) 	<p>●追加説明【友竹 地域連携センター長】 52 件となっているが、地域の小中学校からの依頼が多いため、先ほどの公開講座と違って、放っておいても集まるくらいたくさん声をかけていただく。現地に行って講座を開催するという形だが、実習のように行う先生もいるため、講義ではない形もある。日程調整をそれぞれの先生と直接交渉して行ってもらうという点が、出前講座と公開講座の違う部分。現地では担当の方が準備をしてくださるので、教員は体だけ持って行き講義をするというような形。</p> <p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 小学校中学校の講座を引き受けることによって、学生募集につながるよう意識しているか。小学校中学校の時から短大に</p>

			<p>来るといいよ、というような仕掛けのよ うなものを意識して引き受けられている のか。</p> <p>●回答【友竹 地域連携センター長】 学生募集は大いに意識している。保健の 関係の看護学科、介護等あるので、性教育 等の依頼が多くある。小さい頃から短大 に親しみを持てるような工夫をしてい る。本当に近いところの小学校は、こっ ちからお願いしてこういうのはどうす か、というような申し出をしているケ ースもある。</p>
6	<p>包括連携協定を 締結している大学 との具体的な連携 活動についてご教 示ください。</p>	<p>本学は、平成 27 年に、愛知大学 と包括連携協定を結びました。協定 書第 2 条の連携・協力事項には、学 生の交流、共同研究の推進、シンポ ジウム等の共同開催、教職員の相互 交流、施設の共同利用、その他、と 6 項目があります。具体的な活動で は、愛知大学より本学公開講座への 講師派遣と、本学の教室を愛知大学 の地方入試会場として提供してい るという活動があります。公開講座 への講師派遣はコロナ禍以降停止 しています。今後は、学生の地域政 策に関する共同研究やフィールド ワーク、正規科目への講師の派遣、 教員同士の研究会などに連携活動 を広げていきたいと学長同士で意 見交換がなされています。</p>	<p>●追加質問【禿 学長】 愛知大学との連携内容について、十分に 理解した。愛知大学との連携も含めて、文 科省では大学間連携、関連科目の連携促 進についてアナウンスがあるが、このこ とについて愛知大学との連携強化、ある いは地域大学との連携強化等について方 向性や考えがあれば教えていただきた い。</p> <p>●回答【武分 学長】 現在、そのための仕掛けを作り出して いる。 近いところでは、伊那市にある南信工科 短期大学校と包括連携協定を結んだ。た だし専門学校のため、単位互換に関して は課題がある。 飯田市の同地区に飯田コアカレッジ、長 野県飯田技術専門学校という専門学校が あり、9月25日に包括連携協定を結ぶ予 定で準備を進めている。 近いところに大学が無く、連携が難しい ため、まずは専門学校等と連携を結び、 今後は遠隔で連携ができるよう協議を進 めていく。</p>
7	<p>ボランティア活 動の「地域貢献活 動」としての単位取 得要件はどのよう な程度を想定され ているか、また評価 並びに認定の仕組 み（委員会組織な ど）についてご教示 ください。</p>	<p>社会貢献活動(ボランティア等) について在学期間中に取り組んだ 活動時間数が 30 時間を超えた場合 に、実践レポートの作成及び所定 の書類を教務課へ提出することで 単位認定を行っています。</p> <p>【提出書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「単位認定申請書」、30 時間以 上(累計)の「活動実践記録」、「社 会貢献活動の実践レポート」 <p>単位認定までの手順、詳細につ いては令和 6 年度学生便覧 P26 及 び各学科・専攻のシラバスに記載 しています。</p> <p>*資料表示 【備付資料】社会貢献活動</p>	<p>●追加質問なし</p>

8	<p>貴学は令和6年度 私立大学等改革総合支援事業(タイプ3:地域連携型)に採択された短大4校中の1校ですが、補助金採択のために特に取り組まれている事など、アドバイスいただきたい。</p>	<p>自治体や産業センターと連携協定を結んで、地域課題解決に向けた取り組みを行っています。地域経済活性化プログラムや防災プログラムの共催のほか、地域の特産品や伝統野菜を使った商品開発、伝統工芸の普及活動などを学生といっしょに実施しています。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田産業センター協定書 ・開発パン R6 ・菓子&弁当 R6 ・開発商品(スミツネ)HP 情報 ・地域経済活性化プログラム R6 	<p>●追加質問【福岡 事務局次長】 補助金を獲得するのが毎年その質問の難易度が上がっていく中で、令和6年度に改革総合の補助金を取られたというのはすごいことだと感じる。飯田短大さんは地域に根差した短大を実践されていると思った。 追加での質問になるが、改革総合のタイプ3を取る上で、地域連携推進に関する目標を立ててそれを実践するという流れになっている。それ以外にも包括連携協定や地元自治体・産業界と覚書を交わすなど様々なことをされているが、この覚書を交わす際の経緯を教えてください。</p> <p>もう一点、補助金について、改革総合も特別補助の一つになっているが、貴学の特別補助の獲得を見ると、社会人の入学生受け入れの整備、環境整備の補助金を獲得している。社会人の受け入れに寄与している取り組みがあれば教えてください。</p> <p>●回答【友竹 地域連携センター長】 覚書については、先に共同で活動しているケースがほとんど。例えば店などと共同開発を行い、商品開発等を進める中で覚書をお願いするケースが多い。こちらから声をかけることもあれば、相手方から声をかけていただくことも多い。</p> <p>社会人の受け入れについては、長期高度人材育成という制度がある。介護・福祉・栄養士・保育士については社会人向けのそういった制度(補助金)を利用して多くの方が入学してくれている。</p>
---	------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基準	Ⅱ 教育課程と学生支援		
-----------	--------------------	--	--

テーマ	B	区分	基準Ⅱ-B-1
-----	---	----	---------

No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
-----	---------	----	-----------

10	<p>「学習成果については、以下のように具体性のあるアセスメント・ポリシーを示し、学習成果の測定を可能としている」(p.33)とあります。</p> <p>(1) 学科・専攻によって、項目に違いがあるように見受けられますが、これは何か理由があり</p>	<p>(1) 学習成果の測定に学科・専攻によって項目に違いがある (2) 測定項目は学生が獲得する個人レベルのものと、学科・専攻としてその達成度をみる組織的レベルのものが混在している、とのご指摘はその通りです。理由としてはこれまで各学科・専攻会において学習成果の測定(アセスメント・ポリシー)の見直しをはかってきた点にあります。令和7年度には、教務委員会において全学及び各学科・専攻の学習成果及び学習成果</p>	<p>●追加質問【石川 副学長・幼児教育学科長】 学習成果をフィードバックするというのも個人レベル、学生レベルでのフィードバックと、学科専攻という組織レベルのフィードバックもあるかと思うが、そのあたりも含めてのご検討という理解でよいか。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長・生活科学専攻主任】 学生が身についたことは私たちにとっても大変喜ばしいものだ。だからそれ自体が組織へのフィードバックにもなる。この目標はちょっと無茶だったかなとか、もうちょっと欲張ってもいいかな、というのやはりフィードバックになる。</p>
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ますか。ご教示ください。</p> <p>(2) ここで示された項目は、学生が獲得する個人レベルのものと、学科・専攻としてその達成度をみる組織的レベルのものが混ざっているように見受けられます。御校の学習成果の考え方についてご教示ください。</p>	<p>の測定（アセスメント・ポリシー）の確認を行う予定になっています。ご指摘の視点も踏まえ見直しを行いたいと思います。</p>	<p>こういったことを考えて見直し体制まで含めて今年度構築していきたいと考えております。</p> <p>●追加質問【田中 生活科学学科長】 生活科学専攻のDPについて、学習成果は自分のやりたいことに対してどれか1つを深く学んでも良いという風に取り取ることができた。学習成果は3つの分野について深く学ぶものは1つで良いが、3つとも最低限のところは身につけてほしいという指針で作られているという理解でよいか。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長・生活科学専攻主任】 おっしゃる通りで、どれか一つをしっかりとやりたいという学生もいれば、どれか一つを軸にしてあとは少しずつ触れたいという学生もいる。学生の願いを第一に叶えていけるよう、それに見合ったDPやAPになるよう作り直していきたい。そういった願いを個人的にも団体的にも持ってやって行きたい。</p> <p>●追加質問【田中 生活科学学科長】 アセスメントポリシーの4番目が卒業制作における作品評価と書いてあるが、これはデザインの部分を見る昔の名残で、これから見直すという理解でよいか。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長・生活科学専攻主任】 その通りだが、卒業制作自体は継続する。全員が卒業制作をしないと満たしていないというような理解にならないよう、矛盾のないアセスメントポリシーを作っていく。</p>
テーマ	B	区分	基準Ⅱ-B-3
No.	確認・質問事項		追加確認・質問事項
11	<p>学科・専攻で実施しているポートフォリオ及びルーブリックの作成方法や運営方法に関してご教示ください。</p>		<p>1. 作成方法 (1) 幼児教育学科：「履修カルテ」、「保育内容 5 領域チェックリスト」の二つを用いている。「履修カルテ」は、専門科目の到達目標において、到達の状況を 3 段階で自己評価し、残された課題を記述する冊子です。「保育内容 5 領域チェックリスト」は、保育の内容、指導法に関わる具体的な項目について、5 段階の自己評価を行うリストです。 (2) 生活科学専攻：ポートフォリオとしては、学習成果を綴ることのできるファイル「学習成果ノ</p> <p>●追加質問【田中 生活科学学科長】 生活科学専攻:3つの領域が多方になっているが、ルーブリックはどのような観点</p>

	<p>ート」を作成しています。ループブックでは、学習成果に対して3領域を4レベルで自己評価でき、その評価に至った具体的な内容及び次学期の課題を書く記述欄を設けて学習成果の具体的な内容を確認できるようにしています。</p> <p>(3)介護福祉専攻：学科の卒業認定・学位授与の方針（DP）を受けて、10の学習成果を卒業時の到達目標と到達状況として、ループブックで評価しています。</p> <p>(4)食物栄養専攻：専攻の卒業認定・学位授与の方針（DP）を受けて、以下に示す5つの評価基準に4つの点検項目を設定して評価しています。また、点検項目は評価点数として加算でき、合計点を算出することで総合的な学習成果を評価することが可能となっています。</p> <p>(5)看護学科：学科の卒業認定・学位授与の方針（DP）を受けて、以下に示す10の学習成果をループブックで評価しています。</p> <p>2. 運営方法</p> <p>(1)幼児教育学科：「履修カルテ」の記入は各学年、半期ごとに行います。「保育内容5領域チェックリスト」は、2年間の学びの振り返り時に活用しています。(2)生活科学専攻：「学習成果ノート」は入学時に学生に配布し、授業科目「キャリアデザイン」初回にこれを用いて学習成果等の説明をし、2年間の具体的な学習成果を綴るようになっています。ループブックは各学期の終わりに学生が記載し専攻主任に提出します。そのループブックを専攻教員が確認し、次学期の初めに返却することで学生にフィードバックしています。このループブックは写しをとり専攻主任が保管します。</p> <p>(3)介護福祉専攻：「私がめざす5つの力」のファイルを入学時に配布し、ゼミの時間にこれを用</p>	<p>で作られているのか。資料を見ると、学力の3要素に基づいて基本的なところを書いて、その後ポートフォリオ的に自分で記述させるようなものと理解すればよいか。</p> <p>●回答【奥井 生活科学専攻主任】</p> <p>3要素というのは多分小中学高校の言い方だと思うが、昨年度見直した教育目的・目標・3ポリシーも、実はその3つを大いに意識している。小中高でいうところの3要素を中心にした目的・目標・3ポリシーにしており、それをうまく学習していくことができたかというのを記入して綴っていく。そういったループブック・学習成果ノートになっている。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>いて学修成果の説明を行っています。特に 2 年次から、介護福祉士の卒業時の到達目標を意識し、実習ごとに目標を意識し振り返りを行っていきます。</p> <p>(4)食物栄養専攻：「学習成果ノート」は、授業科目「キャリアデザイン」の初回に配布し、2 年間の具体的な学習成果を綴れるようにしています。ルーブリックは各学期の終わりに学生が記載し、学びの振り返りに活用しています。</p> <p>(5)看護学科：10 の学習成果は、入学直後の第 1 回キャリアデザインの際に配付し、評価方法の説明を行っています。DP に向けて、①1 年次・前期②1 年次・後期③2 年終了時③卒業時に現段階での到達状況を記入し、①②は担当アドバイザー、②③はゼミナール担当教員に提示しています。教員は、卒業までに、学生個々の目指す望ましい姿を描いていけるよう支援をしています。他、課題レポート評価、臨地実習評価などもルーブリックを活用し何ができることがこの授業科目において重要であるか、学生・教員が共有できるように努力をしています。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 履修カルテ(学習成果) ・保育内容 5 領域チェックリスト ・【生活科学専攻】ルーブリック 2024 ・卒業時到達目標と自己課題学習成果 ・卒業時到達目標と自己課題ルーブリック ・【食物】学習成果自己点検表 ・R6 看護学科学修成果・ルーブリック:学生配布 <p>(【生活】学習成果ノートは実物を提示)</p>	
テーマ	C	区分	基準Ⅱ-C-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
12	<p>長期履修学生入試の実施方法や告知方法、入学後の取り扱い等の詳細をご教示ください。本学では長期履修学生の募集を行って</p>	<p>長期履修学生入試については、長期履修学生募集要項に則り、事前相談を経た後、「書類審査」・「小論文」・「面接」を実施しています。入学後の取扱い等については「規程集-長期履修学生規程」により定められています。また、告知について</p>	<p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 長期履修学生の在籍数のカウントというのはどのような扱いになっているか。</p> <p>●回答【稲吉 学務部長（兼教務課長）】 在籍数のカウントについては正規の学生としてカウントしている。 年数に応じて配当される学年というのが</p>

	いないため、参考とさせていただきます。	は学校案内、本学ホームページで行っていますが、積極的な広報を行っていません。個別の問い合わせを受けた後に対応しているのが現状です。なお、近年においては、所定在学期間での卒業が困難な場合や、半期の履修科目を軽減した上での卒業を目指したい学生の意向を汲み取り、転籍として当制度を利用することが多くなっています。 *資料表示 ・【備付資料】長期履修学生	決まっており、2年間、仮に4年間で長期履修制度を使った場合は、前半の2年間で1年生、後半の3年目・4年目の2年間で2年生という形でカウントして、各種学校基本調査や個人基礎調査の根拠として正規の学生として報告している。 ●追加質問【大西 総合学務センター長】 就業定員の充足率に影響を及ぼすということは、今の回答で対応しているのか。 ●回答【稲吉 学務部長（兼教務課長）】 学生の数に含めて報告している。
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
13	優秀な学生に対して、学びを深める様々な機会を提供していただけますが、学内集談会発表や紀要報告等への学生の具体的な関わりについてご教示ください。	優秀な学生に対する学びをより深める機会の提供として、指導教員の指導のもと研究テーマを据えた学習を行っています。その発表の機会として、卒業研究発表会や学内集談会、学会での発表、紀要報告を行っています。 *資料表示 ・卒業の様子・学内研究集談会 ・梨ジャムのマカロン POP・どら焼き	●追加説明【友竹 生活科学学科長】 積極的な学生に声をかけ、地域での活動を研究としてまとめている。具体的には授業外で、県の依頼に対応し、梨を使った加工品（マカロン、どら焼き）を作成した。 ●追加質問なし
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
14	食堂のメニューについての打ち合わせはどのように行っているのか。また、食堂の営業時間等についてご教示ください。	・メニュー、営業時間に関する打ち合わせを月一で委託業者（三和商会）2名と管理部長1名で行っています。 ・メニューについては、年度当初の打ち合わせの中で、業者が利益をとれること、学生・教職員の食事がなくて食べられないことがないことを前提に設定を行い、定食2種類、定番メニュー3種類として営業するように決めました。（弁当の販売も併せて行っています） (打ち合わせ内容) ・食数設定を業者が行っているため、学年暦を基にして、試験期間中のメニューであったり、実習に出てしまう学生がいる日や来学者が利用する日の確認を行ったりして食数設定をしてもらっています。また、打ち合わせ	●意見【大西 総合学務センター長】 報告書の38ページに、毎月打ち合わせを行う、営業時間を長くするなど、学生サービスにかなり力を入れていると思ったため質問した。 本学の方でも学生サービスに関して工夫を凝らしているところだが、本校ももう少しきめ細やかな対応が必要と思った。

		<p>時間が 13:30～となっているので、その場で食事をしている職員の意見を伝え、メニューの要望を出し、検討してもらうことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・営業時間について <p>R6 年度 11:30～13:15 としていましたが、学生は、12:10 迄授業があること、交代で昼食をとる職員が 13:15 迄では食堂に行けないと言った理由により、R7 年度より 11:45～13:30 に変更してもらいました。</p>	
15	<p>カウンセリングについて外部カウンセラーを配置されているようですが、カウンセラーの人数と対応している曜日、時間等をご教示ください。また、予約の方法などもあわせてご教示ください。</p>	<p>①外部カウンセラーの人数：1 名です。</p> <p>②対応している曜日・時間：月 2 回程度・放課後に 3 人枠程度・一人当たりの時間は 1 時間程度です。</p> <p>③予約方法：希望者が健康センターで予約します。常駐する健康センター担当職員（養護教諭・衛生管理者）が対応しています。</p> <p>*資料表示</p> <p>・メンタルヘルスカウンセリングのご案内 6 月</p>	<p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 (報告書 P38) センター長が看護師及び養護教員免許所有者、常駐する担当職員は養護教員及び衛生管理者の免許を持つ方でカウンセリングには携わっていないという理解でよいか。 本学では専門の養護の先生がおらず、昨年度までは二名のカウンセラーを週 2 回（毎週水金/火水）配置していた。学生の相談数に繁忙期、閑散期もあることから、今年度は費用対効果を考え週 1 回に変更した。 貴校は月に 2 回の事で、学生の相談はそれで十分回転しているという理解でよろしいか。</p> <p>●回答【澤田 健康センター長】 それぞれ養護教員の免許を持った者が配置されており、日々来室する学生への対応の中にはカウンセリング的要素も含んでいる。更に専門職のカウンセラーをお願いしたいという希望のある学生に対してはつないでいるということ。 学生はいろいろ相談する相手を選んでいる。本学では主にアドバイザーが日々のケアをしている。学生課の方でも相談に乗っており、様々な職員や教員が日々学生の相談に応じている。職員の窓口での相談対応もかなり多い。</p>
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-3
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
16	<p>学生生活課が学生生活支援、就職支援、障害学生支援と幅広く担当されていますが、教職員間の連携をどのように工夫し学生支援をされているのでしょうか。特に就職支援における学生への個別面談は、ど</p>	<p>1 年時の進路希望調査を学生課に提出後、それを基に学生と面談します。特に生活科学専攻、食物栄養専攻の学生と一人ひとり時間を取って面談します。</p> <p>他の学科専攻は専門職就職希望がほとんどですが、この専攻は企業に就職を希望する学生が多いため早い段階から就職活動の意識を高め、自己理解を深めるきっかけ作りを図っています。学科の教</p>	<p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 (報告書 P39) 全学生に面談した結果をクラスアドバイザーに対してフィードバックを行っているという理解したが、その時に不都合など生じていないか。</p> <p>●回答【渡邊 学生課長】 ほぼ全員が専門職就職する介護・看護の学生に関しては、より詳しい学科のアドバイザーに面談を任せている。学生への連絡はオクレンジャーシステムを利用してメール開封状況を確認し、奨学金の手続きで学生課を訪れた際などにも積極的</p>

	のように行われているのか、また、フィードバック後の教職員間の具体的な連携についてご教示ください。	員・アドバイザーとはメールや内線電話で連絡を取り合っています。また学生課内でも職員同志が情報共有しながら学生支援をおこなっています。	に声がけしている。
基準 III 教育資源と財的資源			
テーマ	A	区分	基準Ⅲ-A-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
17	学内集談会発表について、評価をされているとのことですが、評価の方法とフィードバックの有無、相互連携の効果などを含めてご教示ください。	<p>報告書において“評価”という表現を用いていますが、各教員の研究発表について忌憚のない意見交換を行っているという表現が正しいものとなります。なお、相互連携については学科専攻、教員、事務職員の垣根を越えて研究や発表を行うこともあり、互いの専門領域の理解促進、共同研究への発展などが効果として挙げられます。</p> <p>*資料表示 ・【備付資料】学内研究集談会</p>	<p>●追加質問【木下 研究活動委員長】 科研費の応募促進のための取り組みについて教えていただきたい。</p> <p>●回答【山口 管理部長(兼財務・庶務課長)】 一般的な応募手続きに関する説明会を実施しており、研究に前向きな教員へは共同研究も含め声掛けしている。</p>
テーマ	A	区分	基準Ⅲ-A-4
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
18	改正設置基準以前より教職協働による組織体制を整えていらっしやうとのこと、具体的にご教示ください。	<p>学校運営、学生指導に関わるほぼ全ての委員会、学長諮問機関等において、従前より事務職員を配置して教職協働を行ってきました。また、月1回実施される拡大教授会においては、全ての教員と課長級以上の事務職員が一堂に会し、学校運営全般に関する事項、協議事項、報告事項を共有しています。その場に参加していない事務職員については、拡大教授会報告として翌日に情報共有を行い、非常勤職員に至るまで、全学において共通認識を持つように努めています。</p> <p>本学において教員と事務職員は学校運営における両輪であるという認識は、開学当時より受け継がれている精神であり、今日の組織体制はそれを具現化したものであると言えます。</p> <p>*資料表示 ・【備付資料】学務分掌</p>	<p>●追加質問【熊木 事務長】 拡大教授会、専任教授会の構成員や審議事項について、教授会規定等でどのように定めているのか。</p> <p>●回答【稲吉 学務部長(兼教務課長)】 拡大教授会は教授、教授以外の教員及び課長以上の事務職員にて構成され、月1回開催している。 専任教授会での審議については、学校運営に関わる重大事項、新規教員採用、昇格人事、刑罰や懲罰に関わるものについて議論するという規定を定め、それに則って運用している。</p>

5. 編集後記 (ALO)

飯田短期大学 自己点検評価委員会 委員長 (ALO) 三浦弥生・事務局 (ALO) 神澤絢子

相互評価については、地域総合科学科適格認定評価委員会（旧自己点検・相互評価推進委員会）が、自己点検・評価活動の定着と教育研究水準の向上及び質的充実の目的という役割を十分果たしたとして、平成6年度の実施をもってそれを終了しました。また、認証評価では平成7年度から第4評価期間となり、評価基準の一部が改訂となりました。そのような背景のなかで、仁愛女子短期大学様と本学の4回目となる相互評価が実現しました。ALOの立場で振り返りますと、相互評価実施の是非を決める際は、平成9年度の認証評価の予行練習的な意味合いを強く持っていたように思います。しかし、相互評価を終えてみますと、準備から実施に至る全ての過程において自己点検だけでは得られない緊張感や新たな発見があり、頂戴した多くの示唆からは新たな発想や転換の重要な視点を得ました。

来年度、本学はこの地に開学し60周年を迎えます。この相互評価で与えて頂いた視点や気づきを、この地域になくてはならない高等教育機関として、また建学の精神「うつくしく生きる」という理念をもつ高等教育機関としてよりよく発展させ、その役割を十分に果たして参りたいと考えております。

最後になりましたが、今回の相互評価の円滑な実施あたり、仁愛女子短期大学点検評価推進室長でALOの中尾繁史先生をはじめご担当の教職員の皆様に大変お世話になりました。打ち合わせの段階より心安くご指導賜り、評価はもとより報告書の作成に至るまで大変なお心遣いを頂戴しました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。